

授業科目名	アートマネジメント概論	担当教員	井原 麗奈 大野 はな恵
必修の区分	必修		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第 1 クォーター		
講義内容	アートマネジメントは、狭義では文化施設、文化団体、文化イベントの運営のあり方、広義では芸術・文化を活用した地域活性化や地域共生社会の構築など芸術・文化と社会をつなぐ領域全般を指す。この授業では、文化施設や文化イベント運営の実務につながる基本的な知識の習得とともに、現代社会のさまざまな分野と芸術・文化とのつながりについて理解することを目指す。		
到達目標	・アートマネジメントの定義について概ね説明できる。 ・アートマネージャーの仕事について、文化施設運営や文化団体の具体的な活動事例をもとに説明することができる。 ・芸術・文化を活用した地域活性化や地域共生社会の構築について、事例を挙げてその概念を説明することができる。		
授業計画	1. イントロダクション アートマネージャーの仕事とは？（大野・井原） どのようなことを仕事にしている人なのか？どこで活躍できるのか？ 2. アートマネジメントの特徴と社会的役割 （大野） アートマネジメントの概念の整理と社会的役割と公共性の意義について考える 3. 芸術文化による地域課題へのアプローチ（大野） アートによる社会課題解決の事例やニーズに応じた協力の構築を学ぶ 4. 芸術文化とフェスティバル（大野） アートフェスティバルの役割とそれにまつわる計画立案と運営を学ぶ 5. 教育普及事業としての芸術文化（大野） 教育事業における芸術文化を学び、それが教育に与える影響を考える 6. 社会包摂における芸術文化の役割 （大野） 社会包摂の意義を学び、多様な人々の参加を促進する方策について考える		

	<p>7. 芸術文化事業のインパクトとその測定（大野） 事業が社会に与える影響と成果指標の意義と限界を学ぶ</p> <p>8. 企画書・予算書の作成①一場にこだわる（井原） 実際に企画書・予算書を書いてみる どこで・どのような企画を開催するのかを考える（ブレインストーミング）</p> <p>9. 企画書・予算書の作成②一企画立案について（井原） 実際に企画書・予算書を書いてみる イメージした企画を現実に落とし込む方法を考える</p> <p>10. 企画書・予算書の作成③一お金の問題と向き合う（井原） 実際に企画書・予算書を書いてみる 何にどのような予算が必要なのかを考える</p> <p>11. アーティストとは？？（井原） 表現者という生き方とその姿勢について学ぶ</p> <p>12. 課題へのコメント・まとめ（井原） 提出された課題に対するコメント</p>
事前・事後 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業テーマに関連したキーワードについて事前に文献等で学習すること。 ・次の講義の前に、配布した資料を用いて前回の授業内容を復習のこと。
テキスト	必要に応じて毎回の授業で資料を配布。
参考文献	<p>小林真理・片山泰輔 監修・編『アーツ・マネジメント概論』（水曜社・2009）</p> <p>熊倉純子 監修『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』（水曜社・2014）</p>
成績評価 の 基 準	授業内で実施する小レポート（リフレクションシート／40%）、課題レポート 60%）により評価する。
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	授業に関する質問は担当・井原（i.rena stdat.at hyogo.ac.jp）[*を@に変更]まで。